区報ぶんきょう　オリンピック・パラリンピック こども新聞　平成30年9月1日

文京スポーツセンターリニューアル

ドリブルがむずかしい車いすバスケットボール

6月30日に行われたドイツ×スポーツセンターリニューアルオープンを取材しました。NO EXCUSE（ノーエクスキューズ）の方による車いすバスケットボール体験会に参加しました。試合をしてみるとドリブルが大変でシュートの高さにたどりつけませんでした。湯浅 剛（ゆあさつよし）選手にお話をうかがうと、「車いす生活はとても大変で、とくに歩道などが大変です。車いすバスケという競技で、世界の人とつながれる未来が近づいているかもしれないので、2020年はパラリンピックを応援（おうえん）してください」とメッセージをいただきました。

（小5／S・K記者）

湯浅冴華（ゆあささえか）選手（左）と湯浅 剛（ゆあさつよし）選手（右）

男子チアリーディング ～オリンピックの2年前記念イベント～

早稲田大学（わせだだいがく）男子チアリーディングチーム「ショッカーズ」のショーを見ました。ふつう〝チア〟といえば女子をそうぞうしますが、全員男子で迫力がありました。ばく転や側転、ピラミッドと男子ならではの気合があるすごい演技でした。

（小5／S・K記者）

早稲田大学男子チアリーディングチーム「ショッカーズ」

ASJいのちの教室＆ヨガ教室

教育の森のスポーツセンターがリニューアルされ、ASJ（エーエスジェイ）アスリートの曽田容子（そたようこ）さんによる、いのちの教室と、ヨガ教室に参加しました。目の前で人が倒れたらどうすればよいのかを学びました。学校の保健の授業で胸骨圧迫（きょうこつあっぱく）の仕方やAED（エーイーディー）の使い方は教えてもらいましたが、痙攣（けいれん）などの特徴も教えてもらいました。いびきのような息をしていたら、その時は胸骨圧迫をすると言っていました。今の私だったら目の前で人が倒れてもきっと助けられると思います。

次にヨガ教室に参加しました。見ていると簡単そうですが、やってみると呼吸も大事で、気を付けるところがありすぎて難しかったです。右足で立つことができても、左足で立つことが無理だったりしました。みなさんもぜひやってみてください。

（小5／C・F記者）

ウィルチェアーラグビー 世界選手権遠征前 直撃取材！

はげしくぶつかって迫力（はくりょく）まんてん！

7月26日にお台場にあるウィルチェアーラグビーの練習場に行きました。ウィルチェアーラグビーとは、手や足などに不自由がある方がやるパラリンピック競技です。特殊な車いすを使ってやります。車いすは「攻撃型（こうげきがた）」と「守備型（しゅびがた）」に分かれていて、攻撃型は全体的に小さく、守備型はバンパーがあり敵の攻撃をガードします。ウィルチェアーラグビーでは激しくぶつかりあったりすることにおどろきました。ぼくはウィルチェアーラグビーにとても興味（きょうみ）をもちました。なので、8月に行く世界大会を応援したいです。

（小5／R・Y記者）

ウィルチェアーラグビーのボールは丸です。ラグビーといえば楕円形（だえんけい）ですが、ウィルチェアーラグビーのボールは実はバレーボールをザラザラの表面にかえたボールです。私は会場に入ったとき「すずしい！」と思いました。実はすずしいのは理由があるんです。障がいのある選手の一部は汗をかけないため、自分で体温調節ができません。そのため、熱が体にこもり熱中症にならないためにクーラーを通常より低くしているそうです。

（小5／H・K記者）

若山英史（わかやまひでふみ）選手（左）と
永易 雄（ながやすゆう）選手（右）に正面からアタック

選手のプレーを熱心に見つめるこども記者たち

ウィルチェアーラグビーは障がいの重さと軽さによって、選手の持ち点が変わります。点数は0.5きざみにされていて、障がいが重い方が点数が低く、最小で0.5点。軽い方が点数が高く最高点が3.5点です。コート上は4名だけで8点以内で編成されます。僕はこのルールは障がいが軽い選手だけでなく、重い選手もコートに出れるのでとても良いと思いました。

（小5／K・K記者）

ウィルチェアーラグビーの試合は8分が4回と2分の休憩が2回と5分の休憩が1回あります。コートはバスケットボールのコートと同じ広さの物を使います。試合中に道具がこわれたら交換（こうかん）してすぐに試合に出られるようにします。日本代表はオーストラリアで開催される世界選手権に行きます。その大会は4年に一度の大会です。パラリンピックの次に大きい大会です。

（小5／R・M記者）

池崎大輔（いけざきだいすけ）選手にインタビュー！

「日本チームはチームプレーができ、チームワークが良く、組織力（そしきりょく）があきらめない」と言っていました。はじめて観ましたが、パスが上手く通るために、声をかけ合っていました。ラグビーの楽しい部分は「ぶつかり合うところ、スピードがあるところ、衝撃（しょうげき）音、迫力（はくりょく）」という部分だそうです。確かに車いすと車いすが衝突（しょうとつ）した時は、交通事故が起きているようでした。手や足が不自由だけどもリハビリを続けながら取り組んでいる選手をみて、僕も今できることを全力で行おうと思いました。

（中1／K・A記者）